

第6学年 国語科学習指導案

2組 計24人 (男子11人, 女子13人)

指導者 豊重 真奈美

1 単元 「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」

(教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」-インターネットと学習 光村6年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、第6学年教材「生き物はつながりの中に」で、重用語句や中心文から文章構成を考え、筆者の意図に沿って要約する学習をしてきている。また、筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもち、友達と意見交換会を行ってきた。

そこで、これまでの学習を生かして、筆者の事実と意見の述べ方の違いに着目し、自分の考えを明確にしながら読むことと、他者へ情報発信し、交流することをねらいとして本単元を設定した。

教材「平和のとりでを築く」は、戦争で広島に原子爆弾が投下され廃墟と化した建物が、多くの人々の平和を願う心から世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた説明的文章である。本教材は、「話題提示-説明-まとめ」の大きく三つのまとまりで構成されている。文章は簡潔で分かりやすく、具体的な年数を挙げながら事実が時系列で書いてあり、事象と感想、意見の関係や要旨をとらえやすい教材である。また、平和を強く願う筆者の思いが、題名やまとめに凝縮されており、世界に目を向け、「平和」について自分なりの考えをもちやすい教材である。

本単元で子どもたちは、事実と筆者の思いを区別し、文末表現の違いや重要語句に気を付けながら、文章に書かれたことを正確に読み取り、要旨を正しくとらえることで、読み手を引き寄せる文章構成の巧みに気付くことができる。さらに、「平和」について自分の考えの根拠となる材料を収集・選択し、それを基に自分の考えを構成し、発信することで自分の考えを工夫して伝える態度を育てることができる。そして、それぞれの考える「平和」について交流し合う中で、平和についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

ここでの学習は、中学校での「読むこと」の「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」へと発展していく。

(2) 単元の目標

- | |
|---|
| ○ 筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとする。
【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、自分の考えを伝えたり、自己の感想と比較して聞いたりすることができる。
【話す・聞く能力】 |
| ○ 自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができる。
【書く能力】 |
| ○ 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読むことができる。
【読む能力】 |
| ○ 考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方について理解することができる。
【言語についての知識・理解・技能】 |

(3) 子どもの実態

ア 教科全般にかかわる実態

本学級の子どもたちは、「生き物はつながりの中に」で、筆者の主張を引用しながら意見文を意欲的に書いたり、日頃の日記を詳しく書いたりするなど、書くことを得意としている子どもが多い。しかし、自分の考えに自信をもてず、全体の前になると躊躇する子どもが多く、自ら進んで発表できる子どもは3分の1程度である。少人数での話し合いは、これまでの積み重ねもあり、自分の考えを裏付ける理由を提示したり、友達との相違点を比べながら聞いたりして交流できるようになってきている。図書やパソコンなどを活用し、事物について調べようとする

情報収集の意欲は高いが、それを上手に活用したり、取捨選択したりする能力はまだ十分ではない。

イ 本単元の内容に関わる実態

① 友達と意見交換をしたり話し合ったりすることは好きですか。
ア 好き 74% イ どちらともいえない 18% ウ 好きではない 8%
② 「原爆ドーム」の名称を知っているか。(写真掲示から)
ア 知っている(正確に) 9名 イ 名前は知らないが、見たことはある 5名 ウ 知らない 10名
③ 知っている世界遺産を書きなさい。(知っている子どもが多かった順)
屋久島(16名), 原爆ドーム(6名), 白神山地, 巖島神社(3名), 古都京都, 知床, 白川郷, マチュピチュ, 法隆寺, メンフィス(各1名), 1つも知らない(4名)

子どもたちは、友達との意見交換の中で、いろいろな意見が出たり、自分が思いつかなかった意見を聞けたりすることにおもしろさを感じている。ただ、自分の意見をもたずに参加している友達がいると交流が途切れてしまい、それが理由でおもしろくなくなっている子どもも少数ではあるがいる。また、人との会話が苦手な意見交換や話し合いを苦手と感じている子どももいる。原爆ドームについては、建物自体を初めて見る子どもたちが半数近くおり、世界遺産についても、あまりたくさんの名称を知らないことなどから、世界遺産への登録の難しさやその意義についてなかなか理解できないのではないと思われる。今後、社会科の学習とつなぎながら戦争や世界遺産について、子どもたちの理解が深まるようにしていきたい。また、これらに関する資料や写真など環境整備を整備していきたい。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子どもが自他の学びをつなぎ、学びを生かすことができるように、以下の点に留意して指導していく。 ()内は五つの言語意識

- 「つかむ」過程では、教材「生き物はつながりの中に」をプレ教材として提示し、要旨のまとめ方や文章構成のとらえ方、意見文の書き方などを想起できるようにする。また、単元の導入で、広島原爆についての画像や絵本を見せながら話をすることで、平和への関心を高めることができるようにする。さらに、一人一人が「平和」について考え、自分の考えを多くの人に知ってもらうために意見文を書いて、外部に発信していくという言語活動を設定し、目的意識をもって読み進められるようにする。発信の手段として、インターネットや新聞などを利用することを伝えておくことで、情報発信に興味や関心をもつことができるようにする。(目的, 相手)
- 「深める」過程では、文末表現に着目しながら読み進めることで、事実と感想、意見の違いをとらえることができるようにする。また、原爆ドームが世界遺産に指定されるまでの過程やそれに対する筆者の思いをまとめることのできるワークシートを工夫し、常に筆者の述べたいことを意識しながら、自分の考えをもつことができるようにする。さらに、読み取ったことをグループやペアで交流させることで、読みを確かなものにし、全体での発表に自信をつけることができるようにする。
- 「味わう・高める」過程では、これまでにまとめた要点や文章構成図などを基に、筆者の考えに対して自分なりの意見がもてるようにする。また、筆者が説得力のある文章を書くためにどんな資料を用いているのか気付かせることで、平和に関する情報を集め、取捨選択することができるようにする。さらに、相手意識、目的意識などの伝え合うための言語意識を再度確認することで、自分の伝えたい内容を明確にした意見文を書くことができるようにする。そして、意見文の構成のパターンを示すことで、自分の選んだ資料とそれに対する意見や伝えたいことを並びかえながら、意見文の構成を考えることができるようにする。(方法)
- 「まとめる・広げる」過程では、意見文を外部に発信する前に友達と交流会を行い、友達の文章や表現のよいところや自分の考えが相手に伝わるかを相互評価することにより、自分の考えを明確に表現することができるようにする。この意見文をインターネットや新聞の投稿欄で発信し、読んだ方からの感想をいただき、平和に関する意見交換ができるようにする。(評価, 場面・状況)

4 指導計画 (全15時間)

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 説明的文章の学習内容と学び方を想起する。	○ プレ教材「生き物はつながりの中に」を通して、説明文の学習方法や学習内容を振り返り、本単元の学習に生かせるようにする。 ○ 広島の実爆投下時の画像や「平和」に関する本を読み、「平和」に関して関心をもつことができるようにする。
		2 全文を読み、題名と①段落から読みの課題をとらえる。 ○ 学習計画を立てる。 ○ 難語句の意味を調べる。 「わたしの考える平和のとりで」を情報発信しよう。	
深める	5	3 「原爆ドーム」がたどった歴史についてまとめる。 (1) ②～⑧段落 ・ 原爆ドームと広島市民 ・ 原爆の投下 ・ 原爆ドームの永久保存 (2) ⑨～⑪段落 ・ 世界遺産への道のり (3) ⑫～⑬段落 ・ 筆者の考え	○ 事実とその背景にある事柄を確実に押さえることで、原爆による被害の様子や人々の動きなどを読み取ることができるようにする。 ○ 歴史的事実に関する画像や資料などの具体物を提示することで、時代や戦争の背景をとらえることができるようにする。 ○ 毎時の読み取りの足跡を掲示することで、筆者の書き方の工夫(文章構成・引用など)を自分の意見文に生かすことができるようにする。 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読むことができる。 (ワークシート・発表)【読む能力】
		4 筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめ、交流する。	
味高	5	5 自分の伝えたいテーマについての資料を集め、調べる。	自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができたか。(ワークシート)【書く能力】
		6 自分の平和についての意見文の仮の要旨をとらえる。	
わめうる	5	7 これまでに学んだ文章構成を想起し、自分の平和についての意見文の構成を考える。	○ 推敲のポイントをおさえることで、伝えたいことを明確にした平和についての意見文を書くことができるようにする。 ○ 外部へ発信することを意識させて交流することで、グループでの意見交換会の深まりがもてるようにする。
		8 「平和のとりでを築く」で学んだ書き方の工夫を生かして、平和についての意見文を書く。	
まとめる	3 (本時1/3)	9 平和についての意見文を推敲したり、意見を交流したりする。	
		10 情報発信を行う。 11 学習の振り返りをする。	

5 本 時 (13 / 15)

(1) 目 標 「平和」についての意見文の交流を行い、自分の意見をさらに分かりやすく伝えるために推敲をすることができるところ

(2) 展 開 () は教師の言葉かけ () は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目と個に応じた指導 ☆ はICT機器活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (5)	<p>1 学習計画表を基に、本時の学習内容を確認する。</p> <p>この時間の学習は、何をしますか。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>「平和」についての意見文の交流をし、自分の意見がさらに伝わるようにしよう。</p> <p>3 本時の学習の進め方を確認する。</p> <p>(1) 自分が平和についての意見文を書くときに工夫したことについて話し合う。</p> <p>(2) 推敲のポイントを確認する。(教材文を想起し、書き方の工夫など)</p> <p>(3) グループで交流する。</p> <p>(4) 自分の平和についての意見文を推敲する。</p> <p>4 自分の意見が伝わるようにどんな工夫をしたのか話し合い、推敲のポイントを確かめる。</p> <p>(1) ポイントを押さえる。</p> <p>(2) 自分の平和についての意見文を自己評価する。</p> <p>5 平和についての意見文をグループで交流する。</p> <p>・「放射能の恐ろしさ」がよく分かるよ。でも、少し事例が多いから、少し削った方がいいよ。</p> <p>・要旨と作文に書いてあることが合っていて、よく書けているよ。</p> <p>6 交流をもとに推敲する。</p> <p>7 全体交流をする。</p> <p>・推敲したことで、分かりやすい文になりました。Aさんのアドバイスのおかげです。</p> <p>・○○のところがよく伝わるかなあと不安でしたが、友達が書き方のアドバイスをくれたので、どう書けばよいか分かりました。</p> <p>・友達に見てもらったから、安心して発信できるよね。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>・自己評価する。 ・意見交換する。</p>	<p>○ これまでの学習の足跡を振り返り、単元の学習課題を確認することで、本時が外部へ向けて発信するための推敲であることを確認する。</p> <p>○ 平和についての意見文を書く目的と推敲の意味を明確にすることで、本時の学習のめあてを意識して学習できるようにする。</p> <p>○ 教材文の構成や平和についての意見文を書く準備を振り返ることで、推敲のポイントに気付かせ、本時の学習の解決の糸口を見いだせるようにする。</p> <p>○ 教材文の構成図や要旨、読みの手掛かりとなる言葉、つなぎ言葉、文末表現等を教室内に提示することにより、一人学びの手掛かりとなるようにする。</p> <p>○ 平和についての意見文を見合う観点を示し自己評価することで、交流の際に自信のないところを中心にアドバイスを受けられるようにする。</p> <p>要旨を明確にした平和についての意見文になるよう文章構成や文末表現、つなぎ言葉等の役割を考えながら推敲することができたか。</p> <p>(平和についての意見文・発表)【書くこと】</p> <p>◆ 自分の意見文に推敲ができない子ども</p> <p>→ これまでの学びを振り返らせながら、教師の助言を受けながら視点を絞って推敲できるようにする。</p> <p>○ 自分の書きぶりと比べながら友達の意見文を読むことで、互いのよさや改善点について気付き、交流することができるようになる。</p> <p>☆ 推敲した意見文を電子黒板に提示することで、アドバイスを受けた部分を見ながら発表したり、聞いたりできるようにする。</p> <p>○ 交流して気付いた改善点や参考になったアドバイスを、再度自分の推敲に活用できるようにする。その際、最終的には自分で判断して書き直していくことを助言する。</p>